

(様式2)

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590600050		
法人名	社会福祉法人 御幸会		
事業所名	グループホーム・ヒルトップくしがた		
所在地	新潟県新発田市中央町4丁目6番6号		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の運営推進会議には地区区長様、民生委員様、児童民生委員長様の3名の役員の方にご出席頂いている。御三方の紹介や口利きを持って、開設以来飛躍して地域との親交が深まってきているように感じる。今年度は事業所の地域貢献と云うことで、自治会館の清掃作業に参加させて頂いた。ご利用者の出来る作業は限られていたが、ご利用者(認知症の方)を知って頂く(啓蒙の)機会ともなった。また、極々近所から初めてご利用となる方があり、これまでの広報活動や地域行事への参加が身を結んだ思いである。地域密着型施設として良い施設になったとの思いもあるなかで、地域の認知症ケアの拠点として責任を感じる所もあり、施設としてより精進して行く次第である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、豊かな自然に囲まれた高台に位置しており、遠くに二王子岳を臨む眺望は、四季折々に様々な表情を見せてくれ、利用者が季節を感じながら穏やかに過ごせる環境となっている。

事業所と同じ敷地内にある母体の特別養護老人ホームとは連携が取られており、医療面においても市内にある系列の病院が24時間体制でバックアップしてくれるため、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを法人全体で支援している。

地域との関係は密接であり、祭りや自主防災訓練への参加、各種ボランティアや小学校の総合教育の受け入れのほか、日常的には野菜の直売所での買い物を通して交流が図られている。

事業所の理念である「笑顔の絶えない家庭づくり」を常に念頭に置き、利用者本位に運営を行うとともに、利用者の役割を奪うことなく自立支援にも積極的に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果【あやめユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示して、全職員が出勤時に確認、振り返りの機会としている。全員で理念の理解・共有を図り実際の利用者支援に繋げるようにしている。	「笑顔の絶えない家庭づくり」という理念は、職員に周知されており、日常的に実践されている。地域や家族にも認知してもらえよう、広報紙に掲載している。年に1回は必ず会議で理念について確認を行うほか、事あるごとに振り返りを行っている。事業所独自の行動規範もあり、朝礼で唱和して職員の意思統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コミセンのイベントや図書館などに行かれて地域の人達と交流させて頂いている。又、喫茶店、ホテルのラウンジなども利用して交流させて頂いている。	徒歩数分のところにあるコミュニティーセンターの年間行事予定を確認して積極的に地域の行事に参加している。各種演芸のボランティアや小学校の総合学習の受け入れのほか、植栽や畑などの指導で地域の方が来訪する機会もある。地域の方との交流のために、あえて直売所で野菜を購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや地域の小学生の総合学習の受入、夏祭りの開催などで事業所へ来やすく、認知症の方との交流も多くもたれ、認知症について理解されている。また支援も広がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況、活動報告、地域行事、困っている事を議題として意見交換の場として活用している。参加者からの地域情報、地域ならではの意見を参考に会議での情報をもとにサービス向上に活かしている。	会議は、利用者、家族、区長、民生委員、隣地区の民生児童委員会、地域包括支援センター職員、特別養護老人ホーム施設長等による構成メンバーで定期的開催されている。地域の防災体制の確認、地域のイベント、雑草の草刈り、害虫対策など地域ならではの議案についても話し合わせ、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事、困った時には市の担当者に連絡を取り相談を行っている。確認事、相談事も常に密に気がねなく出来る協力関係であると認識している。	市の担当者とは顔の見える関係であり、相談や報告などがあれば連携を取っている。主には地域包括支援センターとのやり取りであるが、運営推進会議の内容などは地域包括支援センターを通して市へ報告されている。また、定期的に介護相談員の受け入れも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で身体拘束について勉強している。夜間帯以外は施錠していないし、日中も見守りを十分行なうことで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロの手引き」の内容をマニュアルに盛り込み、マニュアルの内容に基づいて定期的に研修を行っている。研修では実際に起こり得るケースを事例として取り上げ、職員個々が自分の対応について振り返りが出来るように工夫をしている。職員間の関係も良好で、気になることがあれば何でも言い合える環境が出来ている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を行っている。施設職員としての役割や責務も学ぶ。言葉による虐待も無いよう職員間で注意できる環境づくりを目指している。	管理者は不適切なケアを確認した際には、該当する個人のみ課題とするのではなく、職員全体に周知することで虐待予防の取り組みにつなげている。職員間での情報共有がしっかりしているため、個々の変化をいち早く察知でき、その都度話しをすることでストレスの軽減を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で勉強会を開催し、制度の内容について資料を用いて確認、理解し、知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者様、ご家族様に十分な説明を心がけ納得していただくから契約を行っている。不安や疑問は、管理者から十分な説明を行いいつでも連絡して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、面会時に話を伺うことが主となっている。ご家族と職員間は何でも話すことができる関係にあると思われ、要望は運営に反映させるように努めている。	比較的面会が多いため、家族の来訪時に意見や要望を聞くようにしている。また、外部評価での家族アンケートに寄せられた意見を貴重な意見として捉え、可能な限り運営に活かしている。利用者からは日常の会話の中で聴き取りを行っている。独居であった利用者が空き家になっている自宅を心配する言葉を聴き、本人と一緒に様子を見に行ったこともあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ユニット会議でスタッフが意見や提案を言える機会を設けている。管理者は随時対応に努め、必要に応じ代表者に報告・検討し業務に活かしている。	職員同士の関係性が良く、特別な配慮をしなくても意見や要望が出やすい環境にある。毎日の朝礼には特別養護老人ホームの施設長も参加しており、個別の相談にも時間を取ってもらえる。踊りや動物のボランティアの導入、畑の野菜作りなど職員が積極的に意見を出し合い実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダーは、職員となんでも話し合える環境を作り個々の思いを管理者に伝えるようにしている。職員が向上心を持って働けるように委員会、係りを設け個々がやりがいとなる職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員で内部研修を開催し活発な意見がでるように発言の場を作り、個々のケアの向上に力を入れている。また、研修報告書を回覧し、職員間で共有できるようにしている。施設外研修も参加できるような体制を作り職員の育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が図れるように、関連施設で開催される研修会に参加を促している。また、ボランティアの慰問時など関連施設の職員も当事業所を訪れて交流が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には、面談を行いご本人の希望や意向、困っている事について十分な聞き取りを行っている。ご本人が安心してサービスを利用できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には、ご家族が困っている事、不安な事、要望について詳しく聞き取り十分な説明を行っている。入所後も、ご家族の要望、思いをお聞きし安心してサービスを利用していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人が必要としているサービスを見極め入所判定会議を実施している。状況や必要に応じて何度も連絡を取り最も必要な支援を見極め対応できるように努めている。対応が難しいサービスに関しては、関連施設と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、ゴミ捨て、掃除機かけ、食事の盛り付け、配膳、下膳など主体となって、毎日職員と協力しながら行われている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と外食や買い物などに出掛けられ良好な家族関係が保たれている。また、定期的に施設に来られ、衣類の入れ替えや、必要なものなど持参して頂き、共に支援する関係が作られている。	利用者は職員に対して本音を言い難いものとの認識から、面会した後の家族からさり気なく聞き取りをして情報収集に努めている。自宅が県外にある利用者には、定期的に帰宅出来るように家族に依頼し、家族と協力しながら本人の思いを支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ荷物を取りに行かれた際に馴染みの方々と会話をされたり、行きつけの美容院の利用を継続し支援している。	利用者個々の馴染みの関係が継続できるよう、事業所で出来る限りの支援を行っている。入居前に通っていたサークルの友人がボランティアで定期的に来訪しており、また、近所の美容院とは入居後から馴染みの関係となり、ほとんどの利用者が通っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗い終えた食器を拭くために、他の利用者的人数分の布巾を取りに行かれ、配られて一緒に拭かれる。また、拭き終わると、他利用者が食器や布巾などを片付け、また別の利用者がテーブルを拭かれるなどお互い出来ることを理解し、支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者の多くは関連施設へ移られている。ケースによってはフォローも必要となってくることもあり、生活相談員などを通じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用などで本人、家族から暮らし方の希望や意向を聞くと共に、日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。また、市の介護相談員は話す機会を設け本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントシートを活用して思いや意向の把握に努めている。日々、新たに入手した情報については申し送りノートへの記載やシートへの追記により、職員間での共有を図っている。意思表示の困難な方に対しては、家族の話しや日常の仕草、表情などから推し測り、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の初期面接で生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方について把握し、前事業所からの情報を得て、職員間で共有すると共に、日々の関わりの中からより深く知るよう心がけている。	入居前には出来る限り自宅を訪問して、これまでの暮らしや生活環境について目で見たり聴き取りを行っている。入居後に知り得た情報についてもれなく追記して、全職員が把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全てのご利用者において一日の過ごし方を全職員が把握している。心身状態の変化はバイタルサインチェックやその際の言葉掛け、確認により把握に努めている。必要時は申し送りを行い、全職員で共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご本人、ご家族からの意向・要望の聞き取りをおこなっている。サービス担当者会議では、計画作成担当者が主となりご家族・利用者から意見が出やすい雰囲気作りに努め現状に即した計画書を作成している。	3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月に1回の介護計画の更新を実施している。介護計画の更新時にはサービス担当者会議を開催しており、家族にも来訪してもらって、利用者本人と共に意見を聞く機会となっている。隣接する特別養護老人ホームの専門職(リハビリ、管理栄養士など)に助言や指導を仰ぎ、介護計画作りに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に毎日、個々に合ったケアを実践している。様子の変化などは月一回のユニット会議にて検討し、ケアの充実に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に理髪店、受診を行っているが、本人や家族の希望があればその都度対応している。又、受診などで家族が同行できない時は、職員がその役割をし、家族にその都度報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域資源の情報提供をして頂いてそれらを活用している。野菜市場、コミセン等の活用も増し、地域との交流の場の共有が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力病院において診察を受けている。容態変化の際の受診においては、その旨家族に報告を行っている。又、他の診療所受診においても職員が同行したりして、家族の負担の軽減に努めている。	系列の協力病院が24時間体制でバックアップしてくれる体制ができており、利用者のほとんどが利便性を考えてかかりつけ医の変更を行っている。受診の対応も事業所が行っているため、家族の負担は少ない。付き添いの職員が直接、医師に状態を伝えたり、病状についての説明を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の健康状態に変化があった場合は、速やかに看護師に報告、情報を共有して適切な受診や看護、指示が受けられるように実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は病院へ介護サマリーを提供している。利用者が安心できるように定期的に面会を行い励ましている。看護師、スタッフより情報収集を密に行い、早期に退院出来るように努めている。入退院時は家族の負担にならないように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は協力病院の指示を受けながら対応している。病状をみながら常時カンファレンスを行い、チーム全員方針を共有して支援している。更に重篤な場合は協力病院で入院できるように対応している。	法人施設全体での支援体制は確立しているが、事業所の設備面および職員体制等の限界を考慮して看取りは行わない方針であることを、家族、本人に説明している。希望があった場合は、状況に応じて可能な限りの支援を行っていきたいと考えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応マニュアルを事務所に備えている。又、AED、酸素ボンベ、吸引器も備えている。取扱いについては定期的に研修実施している。心肺蘇生の訓練も定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応方法について、事例を通して職員全員に記述式で提出してもらい研修を行い、対応方法の周知と実践力の向上を目指している。AED、吸引器、酸素ボンベが設置されており、使用方法についても全職員が把握できるように定期的に勉強会を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いの下、年二回の防災訓練を実施。全職員が利用者を避難誘導できることを身につけている。消防への通報装置の取扱い、消火器の取扱いは全職員が理解している。地域の方々には依頼して協力体制を築いている。	地域の自主防災組織に加入しており、近隣住民や消防団などと共に防災訓練にも参加している。事業所では消防署の立会いのもと、昼夜の火災や地震など、想定される非常時の訓練を実施している。有事に備え備蓄品の整備も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った時間作りを考え、人格を尊重し、各々に則した対応を行っている。	法人と関わりのある有識者の方が作った教科書を活用し、専門職としての倫理観を養うために毎朝礼時に文言を唱和する取り組みを行っている。定期的に行われる接遇に関する研修に参加するほか、個人情報の保護にも力を入れており、職員の入退職時には守秘義務についての念書にサインしてもらい情報の漏えいを防いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で訴え要望時はご本人の意向を尊重し、自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ生活を送っている。その日に出て来る要望でも、要望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など更衣される際に服を選んで着て頂くように声掛け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、食器拭き、片付けを入居者にお願ひし、職員と一緒にしている。入居者が好きな物をおやつ時に提供している。	利用者個々の出来ることを最大限に活かして、食事の準備から調理、後片付け、メニューのお品書きまで協働で行っている。箸や茶碗などは利用者の馴染みのある私物を使ってもらっている。家族の要望により食事会を計画し、一緒に食事をする取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事形態に合わせて食事を提供し、水分不足などに十分注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい、歯磨き、舌磨きと一人ひとり違うも、声掛け・見守りをやっている。義歯の除菌も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の記録に排泄チェックがあるのでそれを基に排泄パターンを把握している。いつまでもトイレで排泄ができるように、下肢の運動を実施している。	排泄チェック表を活用し、それぞれの排泄パターンの把握に努めている。いつまでもトイレへ移動して排泄ができるように、下肢筋力の維持、向上を目的として歩行訓練や足挙げ運動を意図的に実施している。	ほとんどの利用者がリハビリパンツを着用しているが、失敗も無く、自立している利用者もいる。安心のために着用していると思われるが、利用者個々の自立支援に向けて、ケアの方法を見直す機会を持つことを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認している。食物繊維の含んだ物、果物、好みの乳製品を摂取されている。体操も毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分で入れない時は再度の声掛けや、翌日に変更するなど対応している。菖蒲湯。柚子湯を楽しんで入浴して頂いている。	入浴日を固定せずに1日おき程度に入浴できるように調整しており、入浴時間や同性介助など、それぞれの希望に沿って対応している。季節ごとの変わり湯を用意し、ゆったりと楽しく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動を促し、生活リズムを整えている。個々の体調や気持ちを把握して、安心して眠れるように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局で一包装してもらい、氏名も入れて頂き、内服時も職員間でチェックをして飲み込むまで離れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	春の畑の種まき、苗の植え付け、収穫は一年を通して張り合いを持てる楽しみの一つとなっている。縫い物や刺し子、計算問題を解くことなど活明に満ち溢れた支援が整ってきている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など一人ひとり希望に沿って戸外へ出られるよう支援している。また、花見や紅葉など季節に合った外出を実施している。外出先には地域の農家やレストランなど地域との係わりを大切にしている。	日常的な外出では、地域との交流を考えて野菜の直売所へ利用者と共に出かけたりしている。季節ごとのお花見外出のほか、利用者個別の要望による自宅への一時帰宅や墓参りなども支援している。また、家族の協力も得ながら、より個別の外出支援も実現できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設管理としている。外出に伴う日用品の買い物、外食時の支払いは、ご自分で会計できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時は電話をできるように対応している。暑中見舞いや年賀状は入居者様本人に書いて頂き、施設での様子を写真に載せる等、ご家族様にも喜んで頂けるように工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、居室等は清潔保持の為、毎日掃除、モップがけ消毒を行っている。壁面等には季節感ある飾り付け、イベントなどで撮った写真の展示、利用者の作品展示などしている。余暇には、のんびりゆったり出来る環境に配慮している。	リビングのすぐ外にあるテラスでは、外気浴をしながらお茶飲みをしたり、雄大な自然の景色を眺めて季節を感じる事ができる。事業所内は落ち着いた色調で、壁には利用者の作品や外出時の写真が飾られている。家具等の配置は利用者の安全面を考慮できるだけ簡素化されており、利用者の動線にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングが広く、思い思いの所で過ごされている。又、気の合う方同士で過ごせるよう椅子の配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で一人で過ごされる時間は少ないが、写真を飾ったりされている。今後も居心地の良い空間作りに努めます。	担当職員を中心に、家族や本人の意見を取り入れながら快適に過ごせる居室作りに取り組んでいる。家族には、面会時に合わせてタンスの整理や衣替えをお願いするほか、利用者の馴染みのある品物を持ち込んでもらうよう依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席のテーブル、居室入口にネームプレートを貼り、個々に分かりやすく他者に対しても抵抗のないように配慮している。トイレ、浴室等も分かりやすく表記し、利用しやすいように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				